



新潟県
新栄町歯科医院
佐久間 利喜 先生

幅広いケースに対応できる ハーモナイズの使用感

当クリニックでの8割以上は保険診療を占める。限られた時間、費用の中で質の高い修復処置を行うにあたり、理想とするコンポジットレジンの要件は、

操作性がよく形態付与が容易で、シェードマッチングが簡便、長期安定性があり、且つ経済的とその要件を満たすハードルは高く、症例や修復部位により、あるいは保険、自費の別で使い分けを行っているのが現状で、更に、大白歯部の咬合負担の大きなケースではコンポジットレジン修復ではなく材質をメタルやその他のものにした間接法による修復処置を選択している。

今回、カーより発売されたナノハイブリッドレジンであるハーモナイズを使用し、その操作性、特徴をお伝えしたい。

・考察

非審美領域でのコンポジットレジン修復では、高強度・耐摩耗性による長期安定性は勿論、ある程度の審美性も兼ね備えていることが望まれている。また、賦形しやすく、優れた操作性は処置時間の短縮にもつながる。今回のハーモナイズは、今までのコンポジットレジンの性質を向上させ、術者のレベルを楽に引き上げてくれると実感している。また、保険診療では優れたカメレオン効果により、少ないシェードで広範囲の色調をカバーし、自費診療ではエナメル、デンチン、インサイザルトランスルーセントを含む30シェードでより高い審美性を追求可能となっている。今後の要望としては、フロアブルタイプの開発が望まれる。

MI (ミニマルインターベーション)は、やみくもに歯質削除量を減らすことではなく、必要最小限の介入で長期安定し、2次カリエスの発生を防ぐことだと考える。私自身の技術向上は勿論、さまざまな物性を向上させたコンポジットレジンであるハーモナイズは今後の私の臨床で大きなウエイトを占めていくであろう。

症例1 下顎左側7番



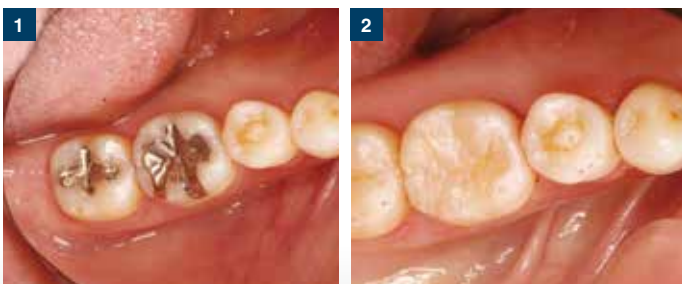
近心隣接面より大きな齲蝕があり、ジルコニアによる間接修復を提案したが時間的・経済的理由により、特徴、物性を伝えた上でハーモナイズによる即日修復を選択した。感染歯質が歯髄近くまで達していたので局所的にリライニングを行い、ハーモナイズのエナメルA2により充填を行った(保険診療)。

症例2 上顎右側4,5,6番



連続する歯間隣接面に齲蝕があり最小限の切削範囲で修復処置を行った。直接法コンポジットレジン修復による最大の利点は健全歯質の可及的保存だと思っている。ハーモナイズのエナメルA2を使用(保険診療)。

症例3 下顎右側6,7番



審美障害が主訴。旧修復物除去後、ハーモナイズのエナメルA2を充填。窩洞が浅く、立体感を表現するため、裂溝部にカラープラスのイエローを応用した(自費診療)。